

【 重要課題：女性 】

道 徳 科 学 習 指 導 案

主題名「平等な社会を目指して」〔学指要領：C (11) 公正、公平、社会正義〕

令和7年11月12日（水） 第5校時 2年〇組教室

人権教育としての授業研究の視点

展開場面において、津田梅子の生き方や「女性を自由にしたい」という思いをもとに、現代の家事の役割分担の実態を通して議論することは、性別にとらわれずに互いを尊重し、両性の本質的平等を目指して行動しようとする態度を育てるのに有効であったか。

I 主題設定の理由

1 価値観

よりよい社会を実現するためには正義と公平さを重んじる精神が不可欠であり、物事の是非を見極めて、誰に対しても公平に接し続けようとする必要がある。公平に接するためには、偏ったものの見方や考え方を避けるよう努めることが大切である。しかしながら、中学校段階の生徒は、他者に対して不公平な態度をとる場合があり、周囲で不正があっても、多数意見に同調したり傍観したりするだけで、制止することができないこともある。また、様々な歴史を背景としたアンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）も社会に浸透したまま残り続け、現代の中学生の意識にも表れる場合がある。そこで、このような不正な態度や意識に気付き、人権を尊重し、性別や立場に関わらず正義が通り、公平で公正な社会の実現に積極的に努めようとする意欲と態度を養うことが大切となる。

2 生徒観（削除）

3 教材観 教材名「女子教育の夜明け—津田梅子」（出典：『新編 新しい道徳2』東京書籍）

明治時代、6歳で渡米した津田梅子は、アメリカで男女が平等に教育を受ける社会を体験した。帰国後、日本では女性が教育を受ける機会がほとんどなく、家庭にとどまるのが当然とされている現実に衝撃を受ける。梅子は女子英学塾（のちの津田塾大学）を設立し、「日本の真の発展は、女性の地位の向上なくしてあり得ない」と訴えながら、女子教育を広め、女性の社会進出の道を切り開いた。

本教材は、津田梅子の生き方を通して、女性に求められる役割がどのように固定化され、それがどのような格差や制限を生んできたかを学ぶことができる教材である。津田の行動は、「性別によって人生の進路が決められるのはおかしい」という問いかけであり、これは現代における家事分担の不均衡や性別による無意識の偏見に疑問を投げかける視点と重なる。現代の生徒にとって、彼女の姿は「性別に縛られない自分らしい生き方を考える」うえでの出発点となり得る。

4 人権教育とのかかわり

現代の日本社会では、男女共同参画や多様性の尊重が進んでいる一方で、家事・育児の負担や職場での昇進機会の不平等といった、性別役割分担意識（男性らしさ、女性らしさ）に起因する格差が依然として残っている。歴史的な考察からも、多くの社会が男性優位のヒエラルキーを定め、「女性（男性）とは～である」という虚構の事実を生み出し、秩序を作ってきた。それは、女性の自由や社会参加を制限し、男女の格差やキャリア形成等における不平等を正当化することにつながった。そして、今も、人権というすべての人が固有にもち、生存と自由を確保し、幸福に生きるために不可欠な権利を侵害し続けている。

中学生は社会の不正に関心を持ち始める一方で、周囲の価値観や多数意見に流されやすい時期である。特に性別役割分担意識は、生徒自身の学校生活や家庭での経験、将来の進路選択にも影響するため、身近で重要な課題となる。現代社会には依然として家事・育児の負担や職場での昇進機会などに男女差が存在し、女性が不利な立場に置かれている事実がある。この現実を踏まえたうえで、「正義と公正さを重んじ、誰に対しても公平に接し、差別や偏見を許さない」という価値を学びの軸とすることが大切である。その過程で、生徒が無意識の偏見や固定観念を自覚し、自分の生活や行動にどのような変化をもたらせるかを考えることが、意義ある学びにつながる。

本授業では津田梅子の生き方を通して、性別役割分担意識が歴史的に格差や差別、自由の制限を生み出してきた事実と、それを変えようとした思いを学ぶ。その上で現代の統計をもとに性別役割分担意識を捉え、男女が公正・公平に生きていくためには、どのような考えが大切かを振り返る。

II 本時の学習

1 **ねらい** 津田梅子の生き方や、身近な家事の役割分担の実態について話し合うことを通して、性別にとらわれずに互いを尊重し合うことに気付き、男女の公正、公平を目指して行動しようとする道徳的実践意欲と態度を育てる。

2 人権教育の視点【育てたい能力・態度】

【判断力】性別役割分担意識をはじめとする固定観念に流されず、何が公正・公平であるかを判断できるようにする。

【実践力】自分の生活や将来の家庭・職場において、性別にとらわれずに互いを尊重し協力できるように行動に移そうとしている。

3 展開

| 主な学習活動 主な発問 (◎中心発問 ◇補助発問) 予想される生徒の意識 [S] | ○指導上の留意点 |
|--|--|
| <p>1 本時で扱う道徳的価値について、問題意識を持つ。(10分) S:料理は女性がするというイメージがあるな。</p> <p>◁めあて>無意識の男女の役割について考え直そう。</p> | <p>○無意識の偏見(性別役割分担意識)に気付けるように、動画教材を用いて、様々な生活場面で男性と女性のどちらをイメージしたかを問いかける。</p> <p>○ロイロノートを用い、無意識の偏見を視覚化する。</p> |
| <p>2 教科書の教材文の範読を聞く。(8分)</p> <p>3 教材を通して、道徳的価値についての考えを持ち、交流する。(21分) S:女性は高等教育を受けることはできない。 S:女子留学生には男子留学生と同じような仕事はあたえず。 S:よい家にとつぎ、夫に仕える。</p> <p>◎なぜ梅子は「女性を自由にしたい。」と考えたのだろうか。</p> <p><グループ> S:誰もが同じ人間だから。(人権的な見方) S:勝手に決めつけられたら嫌だから。(共感的な見方)</p> <p>◇梅子らの活躍で、現代の女性は当時より自由になりましたか。</p> <p>S:自由になった。私は学校に通うことができている。 S:自由になったと思うが、やはり女性は家に縛られている気がする。</p> <p>◇性別で役割を決めることは、社会にとって必要ですか。</p> <p>S:必要ない。また不公平が生まれてしまう。 S:必要。女性しか出産できないから、家庭での役割は必要だと思う。</p> | <p>○範読に入る前に、不公平だと思う部分に線を引くよう促すことで、梅子の生きた時代の女性に対する扱いを押さえることができるようにする。</p> <p>○生徒が「自由」について表面的な意味に留まらず、深く考えられるように、梅子の視点を通して「自由」の価値を多面的に捉えられるようにする。</p> <p>○「(過去から続く)無意識の偏見」により「女性の自由」が制限される恐れがあることに気付くことができるように、導入のアンケートに触れながら、夫婦の家事分担の現状(食材や日用品の在庫管理、献立づくり、育児・教育など、妻の負担が大きいこと)をグラフで提示する。</p> <p>○意見交換が活発になるよう、ロイロノートで立場を集約する。その上で、同じ立場、異なる立場の人と交流し、多面的・多角的に学習のめあてを考えられるようにする。</p> <p>○「必要ない」という意見に偏った場合、「ではなぜ性別で役割を決めていたのだろうか」「女性にしかできないこと(出産)はないか」と問い返し、役割分担が限定的な場面では合理的な側面をもつことに気付けるようにする。</p> |
| <p>4 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについてももう一度考える。(6分) S:男性に産むはできなくても、送り迎えなどはできる。 S:得意なことは積極的にやって、苦手なことは男女で話し合</p> | <p>○「男女の負担を等しく分けることってできるのかな?」、「両方が苦手なことがあったら、やらなくていいのかな。どうしたらよいのだろうか」と問い、議論を深める。</p> |

| | |
|--|---|
| <p>って協力することが大切だな。</p> | |
| <p>5 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えの振り返りをする。 (5分)</p> | <p>○自分の生活と結びつけて考えられるように、「もし自分の家庭だったら」「将来の職場だったら」といった問いを投げかける。</p> |
| <p><振り返り> 性別で役割を決めつけるのではなく、お互いを尊重し合う姿勢と、自分もできることから実行していくことが大切だと思う。</p> | |

◆評価の視点

- ・話し合い活動の様子から、「男女の公正・公平な生き方について、多面的・多角的に考えているか」を評価する。
- ・振り返りの記述から、「道徳的価値について理解し、公正・公平な生き方について、自分自身との関わりの中で考えているか」を評価する。